

学校 教育 目標	【鶴見小学校学校教育目標】「つよいつよいつるみっ子」「力を合わせるつるみっ子」「まちが大すきつるみっ子」				
	(知)主体的に考え、身に付いた知識や技能を使ってよりよく課題を解決しようとする子 (徳)人を思いやるとともに、自分のよさや可能性に気付いて、様々な変化に柔軟に対応しようとする子 (体)継続的に運動に親しみ、健康でたくましい体をつくろうとする子 (公)まちの一員として自分の役割や働きに気付き、まちのために積極的に取り組もうとする子 (関)多様性を尊重し、新たな価値に気付き、よりよい生活を目指して行動しようとする子				
学校 概要	創立 95 周年	学校長 白井 美保	副校長 野尻 亮	2 学期制	一般学級: 27 個別支援学級: 11
	児童生徒数:	932 人	主な関係校: 鶴見中学校 豊岡小学校		

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	鶴見中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
○自ら学びに向かう力 ・豊かにかかわる力 ・生きてはたらく知 ・生き方をよりよいものにしていく力	鶴見中学校 鶴見小学校 豊岡小学校	『力をあわせて、ともに歩もう』 自分のよさに気づき、愛するまちや人とともに、 自分の生き方を切り拓いていく児童生徒を育てます。 ・三校合同で児童生徒理解研修、教科研修、領域研修を行う。 ・9年間で育てる子どもの像 成長目標 を意識し、各校で研修を企画する。 ・体験入学や、部活動体験を行うことで、連携を深める。

中期 取組 目標	○身近な環境や自分についてのよりよい生活について考え、自分のよさや可能性に気付いて、粘り強く問題解決しようとする子を育てます。 ○多様な考えを交流し合い、友達と協同するよさに気付いて、集団生活を楽しいものにしようとする子を育てます。 ○まちで生活したり働いたりしている人々とのつながりを考え、まちのよさや人々の思いに気付き、まちへの思いを主体的に実現しようとする子を育てます。
----------------	--

重点取組分野		具体的取組
知	授業改善	①本時のめあての確認と振り返りの時間を確保し、子どもが自分の学びを振り返ることができるようにする。ICTを授業の中で効果的に活用し、ワークシートを作成したりふりかえりに活用したりできるようにする。②教師の授業力・指導力向上への取組として重点研究教科の生活・総合に加え今年度も国語の研修授業も行う。自分の思いや考えを言葉で伝えることができるようになるために、言語活動に重点をおいた指導をしていく。
徳	豊かな心	①自分や学校生活での目標を設定して、定期的に振り返っていくことで、達成感や充実感を味わえるようにする。また、児童がより良い生活について考える機会を設けて児童が主体となって発信していくことで、児童が自分事として自分の生活の様子を振り返ることができるようにする②YPプログラムの活用方法を教職員が理解できる研修の機会を設けたり、年間の指導計画を作ったりすることで、YPプログラムに年間を通して取り組めるようにする。
体	健康教育	①運動委員会でマラソン大会や体力チャレンジ等、楽しく体を動かす機会を設け、継続的に運動ができるようにする。また、児童がより主体的に取り組めるよう、記録カードを活用し体力の向上を図る。②健康診断や新体力テストの結果に基づき実態把握を行い、学校保健委員会や保健委員会の活動を通して自分事として捉え、健康課題の解決に向け取り組むことができるようにする。③食育指導では、日々の献立を教材として活用し、食育月間や給食週間を中心に、年間を通して食に関する興味関心や栄養の知識を深める。
公開	自分づくり	①仲良し活動(縦割り活動)を中心に、他学年と関わりをもち、自己有用感を高める。 ②生活・総合では、子どもたちの思いや願いから活動を立ち上げ、材や対象と繰り返し関わり合いながら、資質能力を高めていく。 ③総合で学んだことを校内や地域へと発信する機会をつくり、協働的な学びの成果を実感できるようにする。
いじめへの対応		①子ども会議等、子ども自身がいじめについて考える機会を設け、未然防止への取組を強化する。②年に3回の教育相談、年に2回のいじめアンケートを実施し、積極的にいじめの認知をしていく。③月1回以上定期的にいじめ防止対策委員会を実施し、認知された案件の経過確認を丁寧に行うことで、再発防止に努める。また、いじめ防止対策委員会や研修の場を使って、未然防止に向けた事例研修や対応の仕方の確認を行っていく。□
人材育成・ 組織運営(働き方)		①メンター研修会に教務が入り、授業づくりや学級経営について学びあったり、悩みを相談したりする時間を確保し、指導力向上に向けて取り組み、安心して働けるように取り組む。 ②ICTを活用した事務処理の効率化や情報の共有化を図るとともに、組織的な働き方改革につなげる。
特別支援教育		①特別支援教室推進校の非常勤講師を活用して、登校支援や学習支援の充実を図り、安心した学校生活を送ることができるようにしていく。②個別支援学級の取組について、引き続き一般学級の児童や保護者が知る機会を設けるなど、個別支援学級と一般学級の交流を推進する。また、個別支援学級と一般学級の担任が密に連携を取り、児童と発達特性に関することの理解、共有を図る。③YPアンケートの結果を生かした支援検討会を年2回行い、児童の支援を検討し、実践につなげる。
多文化共生		①国際教室を活用して、様々な児童を受け入れる環境づくりを図る。また職員研修を通して職員の多文化共生への理解を深める。②鶴見ひまわりの職員との連携を図り、外国籍の児童や外国につながる児童の気持ちを考える機会を各学級で設ける。③昨年度に引き続き、国際理解教室でかかわる国の様子や授業で学んだことを児童の意見も取り入れながら掲示板等を通して発信していく。
GIGAスクール構想		①ICT機器の活用可能性を広げつつ、校内業務においてはAIの活用についても考えていく。 ②電子ドリルの活用については、引き続き行っていく。また習熟のために必要なことを検討していく。
地域学校協働活動		①地域コーディネーターや学び支援ボランティアのみなさんと連携し、児童の登下校の安全対策や1年生のサポートボランティア、地域の方と協働した特色ある学校教育活動の充実を図る。 ②連携する幼稚園や保育園と交流し、スタートカリキュラムや学習単元で子どもの思いを尊重しながら交流が深められるよう取り組む。